

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.41 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 22年 7月 10日発行

自然観察会案内

参加無料

アサギマダラ マーキング会

アサギマダラマーキングの季節となりました。今年も御嶽山麓でマーキング会を行ないます。夏の締めくくり、秋の訪れを肌で感じてみませんか。

昨年までのマーキングで、関西で一例、九州で再捕獲が二例ありました。北へ飛んでいくのもいました。飛騨から関西、関西から九州まではどのようなルートで渡っていくのでしょうか？ また、飛騨で飛んでいるのは何処から来たのでしょうか？

近年全国的にアサギマダラマーキングをする人が増えてきています。その人たちの協力のおかげで色々な事が分かってきています。

童心に帰って“ちょうちょ”を追いかけてみるのもおもしろいですよ。

期 日 **平成 22 年 8 月 29 日 (日) 少雨決行**

集合場所 **午前 8 : 3 0 「道の駅・あさひ」(朝日町)**

乗り合わせて移動。高根町チャオスキー場、柳瀬峠周辺
15:30 頃「道の駅」にて解散

持 ち 物 捕虫網、油性フェルトペン(黒・細書き用)、メモ用紙、
弁当、飲み物、日除け対策・雨具も忘れないでネ

観察指導 **鈴木俊文 氏 (岐阜県昆虫分布研究会)**

問い合わせ・申し込み **宝田延彦 09012314630 Fax0577-34-1287**

公開講座・自然談話室 変更のお知らせ

前号でお知らせした 7 月 20 日の公開講座は 9 月 14 日に変更となりました。

自然観察会 雪の残る乗鞍岳

雨と強風に泣きっ面!

小野木 三郎

梅雨期真っ只中の期日設定だけに、本来天候の良いことは期待できません。雨降る中をほうの木駐車場に向かうと、続々?と参加者集結。というものの新聞を見ての荘川町からの一般参加者のご夫婦を含めて総勢11人でした。

四ツ岳あたりのハイマツ帯が、白い雲の下に眺められ、8時25分に出発、登るほどに霧も去り何やら明るい空模様に多少心が躍りました。残雪模様の高山帯に入ると、まず目に入って来たのはハイマツの樹海が茶色の染まっている部分が多いことでした。四ツ岳、猫岳の斜面、桔梗ヶ原の道路わき



(烏帽子岳下の道路から猫岳を望む)

と、かなり広い範囲に及んでいます。ハイマツが根元からすっかりと枯れているという訳ではなく、いわゆるハイマツ低木林の表面、樹海の上層部分の葉が茶色く枯れているのです。山地帯のナラ枯れ病が騒がれていますが、そのハイマツ版なのでしょうか。その後注目して見て回ると、ハイマツ林周辺部の風衝低木群落のガンコウラン、コケモモが茶色に枯れているのが目につきました。雲



上の楽園・高山植物の世界にも、何らかの異変が起こっている兆候ではないかと心配になりました。

雨具に包まれて勇躍、自然観察に出掛けるも、雨は降り止まず風が強いのは泣きっ面、足元に目をやるも、まだまだ高山植物の花々には時期尚早でした。それでも、鶴ヶ池の縁に、4~5

株のハクサンイチゲが清純な白い花を風になびかせ、ハイマツ林内にはキバナシャクナゲが花盛り、砂礫地ではミヤマタネツケバナが沢山見られました。イワカガミもツボミを見せ、早咲きのコマクサが、一株に10個ほどの花をつけ、7~8分咲きだったのは圧巻でした。魔王園地の稜線では、強風にあおられ、体が40~50cm横へ飛ばされる状況でした。いやはや瞬間風速は20m/s~25m/sはあったでしょう。雨は降るし、風は強いし、いくらその名が雷鳥とはいえ(午後からは雷注意報が出ていましたよ)、こんな日に姿を見せてくれるはずがありません。ライチョウもハイマツ林内にすくんで、強風を避けているに違いありません。何か痕跡がないかと、直井さんがハイマツの繁みの中に目をやると、おっ卵だ!...思いきや、それは何とニワトリの卵の殻でした。ゆで卵を食べた観光客が、ポイとこの繁みに捨てていったものに違いありません。

ここは、北極周辺部のツンドラの植生の日本・飛騨出張所という特異な自然の聖域です。そんなところへ、いとも安易に観光バスでソロソロと人間が入り込むことが「観光」だとは思いません。観光とは、本来その土地の「光を観る」こと、この「みる」も、見る、看るではなくて、「観る」であることの意味を深く考えてみる必要を感じたのでした。

参加者: 小野木三郎、直井清正、松崎茂・まみ、古橋洋子、小原靖子、秋山元英・紀久子、高嶋恵子、楠原節子、佐藤八重子



直井清正・陽子ご夫妻の 「野生動物愛」を讃える会

(6月27日・高山グリーンホテル)

『飛騨・おしどり夫婦の傷病鳥奮闘記』出版のお祝いと、ご夫妻の長年の動物愛への情熱によって救われた多くの野鳥達に成り代わっての報恩の意を込めて、讃える会が80名を超える多くの参加者で、小野木さんの司会進行で開かれました。

直井さん夫婦によって助けられた野生生物代表のカケスの孫に扮した、小林藍子ちゃん(小1)の挨拶で始まった会は、感謝状・記念品授与、花束贈呈、「清正・陽子物語(秘蔵写真スライド)」余興など盛りだくさんの内容で、最後に『グリーン宣言』を採択して3時間という長時間もアツという間に過ぎていきました。

岐阜県から委託されていた傷病野生鳥類保護事業は終わりましたが、直井さんの家には未だに保護依頼の電話が入っていて、それらに適切に対応しているそうです。22年間に及ぶ傷病野生鳥類保護の状況を、飛騨の野鳥、自然環境の現状を知っていただくためにも、今回出版された本を再度読み返していただきたいです。



『飛騨・おしどり夫婦の傷病鳥奮闘記』

直井清正 著

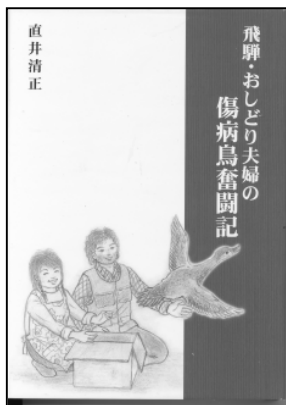
- ・日本野鳥の会岐阜県支部副支部長
- ・飛騨ブロック代表
- ・本会副会長

日本野鳥の会岐阜県支部は、1983年から2004年までの22年間、岐阜県から「傷病野生鳥類保護事業」の委託を受け、傷ついたり巣から落ちたヒナなどを自然に帰すよう保護飼育してきました。そのうちの約半数を直井さんご夫妻が扱っていて、約92種・2000羽近くにもなっています。

この本では、この22年間の保護活動の記録や飛騨の野鳥、城山公園のオシドリはかつて28番も記録されたが今では絶滅してしまったこと。それまでの城山公園のオシドリの観察記録も書かれています。

◎ 購読希望者は直井さんまで連絡をください。(書店では販売していません)

1冊 1,200円 直井清正 ☎0577-72-2831



9月14日(火) 『環境アセスメント』 飯田 洋 (会長)
10月19日(火) 『釣り人から見た河川』 田之本克己 (運営委員)

御嶽展望スポット

その4. 開田高原



開田高原(長野県木曽町)は御嶽の裾野、標高 1000m~1500m にひろがる高原で、麓から山頂までが望めます。木曽福島から飛騨へと向かう国道 361 号線の久蔵峠(1280m)からの御嶽・高原を見下ろす展望は有名で、「信州サンセットポイント百選」にも指定されている。

(写真はここよりも南側の少し低い池ノ沢から撮影)

飛騨からは反対方向から見るので、左が最高峰の剣ヶ峰(3,067m)、右端が継子岳。

山麓の雪の残るところは、右端が「開田高原マイアスキー場」、剣ヶ峰下が「御岳ロープウェースキー場」、左側稜線の少し盛り上がって残雪が見られるところに「おんたけ 2240」の三ヶ所のスキー場が見られる。岐阜県側の「チャオスノーリゾート」を加えると四ヶ所のスキー場がある。御嶽は森林限界がはっきりと見られる山だが、そのあたりから森を切り開いて伸びるスキー場に残された人の手による圧雪。それを見るたびに御嶽が痛々しく見えてくる。

新入会員紹介 橋渡 香織さん、高嶋 恵子さん

くらがね通信 第41号 (夏号) 平成22年 7月 10日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋
TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

- 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287
- 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : アドプリンター